

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

トップ自ら先頭に立って責任を取る 丹羽 宇一郎 (伊藤忠商事会長)

1. 昨年から消費者を欺く不祥事が相次いでいる。不祥事を未然に防ごうと、多くの企業がコンプライアンス (法令順守) を徹底し始めた。そうした努力は不祥事の発生を抑制する効果は少しはある。だが、経営者は不祥事は永遠になくならないと覚悟した方がいい。
2. 人間なら誰しも、不都合な状況に追い込まれると、「ウソをつきたい」「ごまかしたい」といった誘惑に襲われる。人間の心は弱いものである。不祥事は、心の奥底にある、そんな危険因子が会社組織の中で表面化した結果だ。しかし、会社組織の中でついたウソは、消費者や取引先の信頼を裏切り、時には国民の命を脅かす。組織全体で偽装をしていた場合は論外だが、社員の 1 人のウソが社会を揺るがすこともあり、組織内でついたウソは重罪に値する。
3. 不祥事がなくなるのなら、どうしたらよいか。大切なのは、不祥事が発覚した時にリーダーがどのような対応を取るかである。内部告発をする社員を、「会社を守ろうという意識が乏しい」と批判する向きもある。しかし、こうした考えは間違いだ。生活者の視点を忘れない従業員の意見にこそトップは耳を傾けるべきである。トップは社内経由だろうがマスコミ経由であろうが、内部告発者の声を真摯に受け止め、自ら先頭に立って責任を取らなければならない。

(参考:「日経ビジネス」2008年2月11日号)

経営者のための理念・哲学

企業に広がるクレド経営

1. いつになったら新聞記事から「偽装」の 2 文字が消えてなくなるのか。こんな時期だからこそ、企業の原点にある「志」や「信条」が厳しく問われる。社員がもつべき価値基準・行動指針を明文化した「クレド」を掲げる企業が増えている。
2. 世界で最もよく知られているのが、米国ジョンソン・エンド・ジョンソンの「我が信条(Our Credo)」。1943年に起草され、現在、全世界で 12 万人を超える社員に引き継がれている。「我々の第 1 の責任は (中略) すべての顧客に対するものであると確信する」という文言に始まり、全社員、地域社会 (共同生活)、株主に対する責任を明文化した。
3. クレド経営は、地方企業や中小企業にも浸透している。高知の司牡丹酒造(株)は 2004 年に「司牡丹酒造の憲法(クレド)」を制定した。「笑顔の力・挨拶の力」、「気持のキャッチボール」、「報・連・相」といった親しみやすい内容だ。

(参考:「野村週報」:2008年3月10日号)

経営者のための危機管理

無用な不満は起こさない

1. 経営者である以上、出張の際に時間を有効活用するため、仕事に集中できるグリーン車を利用するのは許容範囲。ただし、業績が芳しくない時期に、それ以上のぜいたくをするのは控えるべきだ。
2. 社員に節約を呼びかけ、給与を抑えている一方で、ファーストクラスの航空券や五つ星ホテルの領収書を経理に回したりすると、「社長は危機感がない」といううわさが、経理担当者を通じて社内外に広まりかねない。米国への海外出張ならせいぜいビジネスクラス、アジアや国内であればエコノミークラスに抑えたほうが無用な不満を増やさずに済む。

(参考:「日経ベンチャー」2008年3月号)

古典に学ぶ

敬の心

「敬すれば則ち心精明なり」

(訳) 己を慎み、人を敬う心があれば、くだらない考えを起こすことがないから、心は常に純粋で清く明るい。

(参考:佐藤一斎「言志四録」:PHP文庫)